

「やすらぎの集い」 開く マグリン神父の志継いで／患者さんら大勢が出席

病気療養中の人たちの体と心の安らぎを願う催し「やすらぎの集い」が10月3日、聖マリア病院・ルルドの泉広場で開かれました。入院患者さんや御家族、また聖マリア病院で働く職員および看護を学んでいる学生など約150人が集まり、福岡教区の宮原良治司教のお話しに耳を傾けながら患者さんの健康回復を祈りました。



やすらぎの集いは、もともと聖マリア病院のチャプレン（病院付司祭）を務めた故リックルド・マグリン神父が2001年から始めました。約50年前にイタリアから来日したマグリン神父。佐賀県内の教会を中心に熱心に布教活動を行ってきました。

聖マリア病院では、病院内の住居で起居。日夜、病棟を回っては患者さんを見舞い、体の具合や悩みごとを聞くなど親身になって対応しました。

この間、マグリン神父はホスピス（緩和ケア）でも働きました。ホスピスに入院中の患者さんやその家族から結婚式の司式を頼まれるなど慕われてきました。

昨年11月、マグリン神父が亡くなられたあとも、その志を継いで集いを続けようとチャプレン室が企画。今回、宮原司教と久留米教会の浦川務神父が司式を務めました。

集いでは、宮原司教がキリストの受難の姿を語りながらその福音を伝えました。出席者も全員で共同祈願を捧げ、病の人たちの回復と安らぎを祈りました。

